

平成 20 年度 “超” を目指す軸受技術研究会報告

“超” を目指す軸受技術研究会（第 3 種，主査 森 淳暢）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数 32 名，平均出席者数は 20 名程度で，同志社大学を開催場所とし，3 回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第 25 回研究会（平成 20 年 7 月 5 日 於：同志社大学）①レーザによる SiC 表面への微細周期構造の形成とその摩擦特性（キャノンマシナリー 川原 公介，二宮 孝文，沢田 博司），②中性子反射率法による DLC 膜／潤滑油界面の構造解析（同志社大 平山 朋子），③壁面でのスリップを考慮した潤滑理論とその例題（関西大 森 淳暢）．

第 26 回研究会（平成 20 年 10 月 11 日 於：同志社大学）①マイクロガスタービン用超高速小型気体軸受（東北大 引地 広介，IHI 磯村 浩介，佐治 脩好，東北大 田中 秀治，東北学院大 十合 晋一），②超絶技法「横軸型スラスト軸受」編（放送大 松尾 昌憲），③トライボロジー教科書執筆で考えたこと（滋賀県立大 田中 勝之）．

第 27 回研究会（平成 20 年 12 月 20 日 於：同志社大学）①大型すべり軸受の CBM に活用する潤滑油診断技術（トライボテックス 川畑 雅彦），②玉軸受内部挙動観察の事例紹介－保持器挙動と転動体公転滑り－（東京理科大 野口 昭治），③静圧気体軸受の微小振れ低減に関する一考察（同志社大 北川 貴一，京都大 矢部 寛，同志社大 平山 朋子，松岡 敬）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年 3～4 回の研究会の開催を予定している．